

令和元年度 特定非営利活動法人 PandA-J(東京都) セルフアドボカシー支援に向けた学習プログラムに関する取組



P(プロテクション)and A(アドボカシー)-Japan

通称ぱんだ-ジェイ。

○障害のある人の権利擁護活動や就労支援活動を行い、広く暮らしやすい社会づくりに寄与することを目的として2008年設立。会員は研究者、弁護士、医師、教師、ジャーナリスト、障害福祉事業者、親など学際的・実践的メンバーで構成されている。全国各地にゆるやかにつながる安全ネットや権利擁護ネットワークP&Aを立ち上げるとともに、権利擁護・成年後見情報誌「PandA-J」を発行し、市民や親や当事者にわかりやすい情報提供を行い、理解推進の基盤整備や障害者虐待防止法の啓発にも寄与してきた。

○「共生社会を創る愛の基金」との連携により、罪の問われる障害者の支援等に関する研究活動や、地域における他職種連携による危機介入支援ネットワークであるTS(トラブルシューター)養成にも力を入れてきた。

○ケント大学のG.Murphy教授やR.Rossiter博士、プリズンリフォームトラストJ.Talbot氏らイギリスの研究者・実践家との共同研究に力を入れ、生きづらさを抱えた障害者のための性の問題行動からの離脱プログラム(SOTSEC-ID、KeepSafe)開発に取り組んでいる。

○2018年度から、障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究に取り組み、セルフアドボカシー支援に向けた地域包括支援プログラムの全国的普及を目指している。

「セルフアドボカシー支援に向けた地域包括支援プログラム」の開発と実施 本人講座「私の人生、グッドウェイモデルで行くよ！」

1. 講座「私の人生、グッドウェイモデルで行くよ！」
 ートラブルや人生の岐路に立っても、自分でグッドウェイを選択し、意思決定していける『私』を磨く本人講座
 【KeepSafe & キープセーフFC(for チェンジ)】
 (低・多リスク対応型本人向け学習プログラム)

認知と意思決定スキルを獲得するグループ学習プログラム
 <内容>

本人たちが「人生の岐路」(身近な悩みやトラブル、性問題行動など)に出会ったときでも、「自分にとってのグッドウェイ」を意思決定できるように、新しい認知とスキルを学習するプログラム。支援者たちの「人垣」の支えを得ながら、本人の希望やリスクに合わせて、以下の3ステップから学習を選択する。

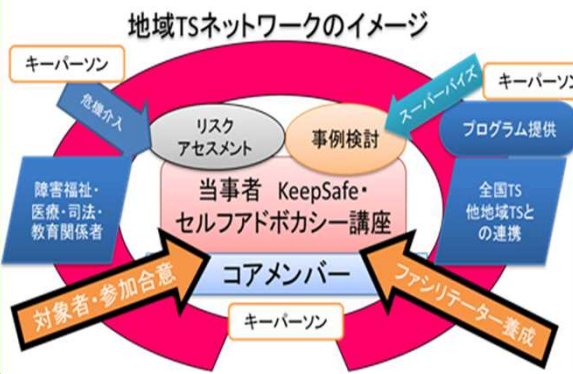
第一ステップ《暮らしの中の選択と自分で決める、を考える》

第二ステップ《小さなトラブルでの岐路と意思決定ができる》

第三ステップ《リスクのある本人とトラブル・性問題行動》

特徴:親・支援者も共に学ぶことで、当事者を実践的意思決定主体として、再支援することを新しく位置付ける。

<2019年度実施場所> ・盛岡18回、名古屋38回、
 ・石狩、札幌、新潟、多摩、沖縄(5回~12回)実施。



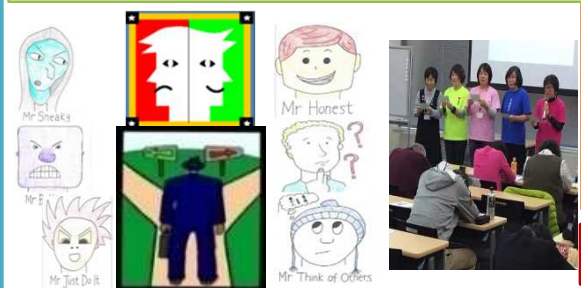
3. 講座「KEEP SAFE」および「キープセーフFC」プログラム実施のためのファシリテーター養成と
 【地域包括支援のための基盤構築】

2. 全国の地域連携協議会の構築と各地の機関の協力と連携による実施

【自立支援協議会をコアとして発達障害者支援センター、基幹相談支援センター、学校、就労継続支援B型、地域活動支援センター、児相、行政等が連携】



各地のトラブル・シューター・ネットワークとともにプログラム実施のための地域連携協議会を実施。各地の自立支援協議会、発達障害者支援センターや地域基幹相談支援センターをベースにした実施基盤を以下の地域で構築し、当事者向けプログラムを実施した。北海道石狩・札幌 盛岡・仙台 新潟 東京多摩 名古屋 沖縄。また、次に地域で構築中である。
 青森 東京武蔵野・杉並 静岡 滋賀 熊本 鹿児島・奄美



理解啓発「Pキャラ隊」によるキープセーフ・キャンペーン